令和７年度　川東小学校学校運営協議会　実践報告

１　学校の概要

学校名	都城市立川東小学校		校長名	川添　卓哉	
学級数	１４	児童生徒数	２５４名	職員数	３３名
教育目標	心身ともに健康で、主体的・創造的に生きるたくましく実践力のある児童の育成				

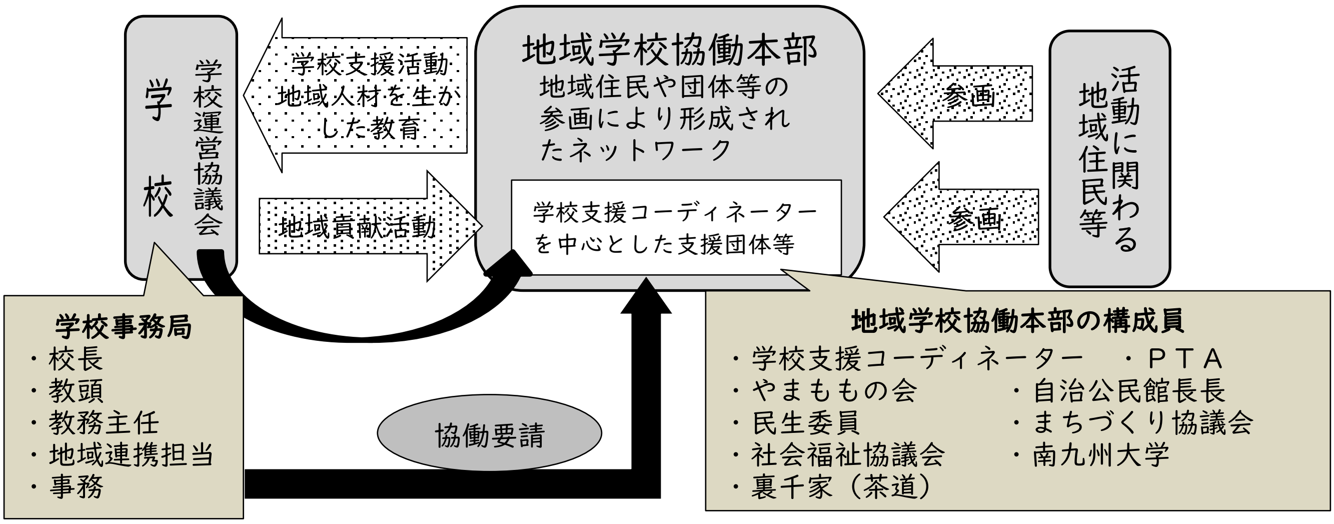
２　学校運営協議会に関わる組織

⑴　委員（計８名）・事務局（計５名）

	No.	所属名（役職）	氏　名	備　考
学校運営協議会委員	１	下川東自治公民館長	山　下　孝　一	会　長
	２	元小学校校長	黒　木　信　吉	
	３	見守り隊	黒　木　準　一	
	４	祝吉地区社会福祉協議会	黒　木　理　佳	
	５	さくらんぼこども園園長	櫻　井　俊　一	
	６	前ＰＴＡ会長	柚　木　敏　修	
	７	ＰＴＡ会長	寶　來　大　史	
	８	ＰＴＡ副会長	下　津　佐　崇	

	役　職	氏　名
事務局	校　長	川　添　卓　哉
	教　頭	黒　木　聖　雄
	教務主任	野　﨑　成　嗣
	地域連携	福　重　夏菜子
	主任主事	原　口　和　秀

⑵　組織編制



３　年間の活動計画

月　日	主な活動及び内容
６月27日	・第１回学校運営協議会（委嘱状交付、学校経営方針説明）
７月18日	・地域貢献活動（乙戸神社清掃　６年）
７月 30日	・第２回学校運営協議会（祝吉地区合同学校運営協議会）
９月25日～ 10月10日	・学校支援ボランティア（ミシンボランティア　５・６年　計９回）
11月14日	・学校支援ボランティア（ふるさと参観日　全校）
11月20日	・第３回学校運営協議会（地域人材活用・地域貢献活動、評価項目について）
11月25日	・学校支援ボランティア（ハローワーク　６年）
11月28日	・地域貢献活動（公園、公民館等清掃　４・５・６年）
12月10日	・第４回学校運営協議会（学校評価について、学校関係者評価について）
１月27日	・第５回学校運営協議会（学校関係者評価のまとめ、今年度の活動の反省等）

4　今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

７月：「ふるさとを好きになる子どもを育てるために」

　祝吉地区３校の学校運営協議会委員が集い、「地域とともにある学校」づくりの実現に向けて各学校の課題や地域でできること等について協議した。

5　学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

⑴　学校支援活動

９月 25 日から 10 月 10 日にかけて、計 10 回の５・６年生の家庭科の授業に、総勢 14 名のミシンボランティアが参加した。ミシンの操作に慣れていない児童も多かったが、一人一人に対する丁寧な指導のおかげで、児童の技能は著しく上達し、全員が作品を完成させることができた。こうした個別対応の支援は、教員にとっても大きな助けとなった。

11 月 14 日（金）には、ふるさと学習（参観日）を実施し、地域学校協働活動本部の協力のもと、総勢 30 名ほどのボランティアが講師として来校した。具体的には、１年「むかしの遊びをしよう」、２年「おいものつるでリースを作ろう」、３年「地域の警察官の仕事」、４年「郷土料理ねったぼづくり」、５年「包括的性教育」、６年「マイブン活用～大昔の歴史～」と、各学年で特色ある活動を展開した。特に１・２・４年は保護者も一緒に活動する内容であり、普段できない体験を親子で共有できたことは大変好評であった。今後も保護者が共に活動できる内容を取り入れるなど、さらなる充実を図っていく方針である。

【１年：昔の遊び】

【４年：ねったぼづくり】

11 月 28 日（金）には６年生の総合的な学習の時間において「６年生のハローワーク」を実施した。地域学校協働活動本部の仲介により、地域の保育士、薬剤師、看護師、保健師、自衛隊員、食品関係従事者といった７名の講師を招き、職業講話を行った。児童は多様な職業の生の話を聞くことができ、極めて有意義なキャリア教育の機会となった。

この他にも、登下校の見守りや茶道クラブ、参観日の預かり保育など、年間を通じて多くの学校支援ボランティアの協力を得ており、地域社会の支えによって充実した教育活動を遂行できている。

７月の祝吉地区３校の学校運営協議会委員との意見交換をする中で、今後の取組についても協議を深めることができ、来年度の活動に生かしていきたい。

働き方改革については来年度の教育課程の方向性を説明し、意見を頂いたことをもとに編成を進めている。

⑵ 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

　学校運営協議会委員の方から業務改善について「必要とされる地域人財も多種多様になっておりもっと依頼に協力したい。」「学校内だけでは解決が難しい部分もあるので関係各所と連携を通して改善へ向かってほしい。」等のご意見を頂き、来年度の教育課程の編成の参考にしていく。

⑶　地域貢献活動

11 月 28 日(金)、４・５・６年生が各地区にて地域貢献活動を実践した。児童自らが計画を立て、公園や神社、公民館の清掃など、自分たちにできる活動に取り組んだ。当日は、例年通り自治公民館の役員の方々にも参加していただき、地域と協力して作業を進めることができた。自分たちの住む場所を地域の方々と共に美しくする経験は児童が地域への誇りを持ち、郷土を愛する心を育む上で非常に大きな意義を持つものとなった。

【4・5・6 年：地域貢献活動】

6　学校運営協議会の成果と課題(○：成果　●：課題)

- ○ 学校や児童の様子を直接参観していただくことで、学校運営への貴重な提言や支援を得ることができた。あわせて、地域における児童の生活状況についても情報共有が図られ、学校での指導に有効に活用することができた。
- ○ 学校運営協議会および学校支援コーディネーターの尽力により、多くの地域ボランティアを招聘でき、多様で豊かな教育活動を展開することができた。
- ●　学校関係者として年間５回の学校運営協議会では学校の取組について評価するのは、十分な評価ができない点もある。今後の学校運営協議委員会の在り方について見直すことも検討する必要性がある。

7　次年度の方向性

- ○ 学校運営協議会を核として、家庭や地域との理想的な連携の在り方について協議を深め、双方が主体的に関わり合える場を積極的に構築していく。
- ○ 学校教育の充実が地域の活性化へと還元される好循環を目指し、今後も地域社会とのパートナーシップを推進していく。